

目標達成計画

作成日：平成 22 年 9 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	座席から立ち上がりが多く座っている事が出来ない利用者に対し「座って下さい」と職員が言ってしまった。	身体拘束に関しての研修は実施しているが、日常会話の中で拘束と思われる言葉を他職員が発したときに注意し合える職場作りを行う。	身体拘束防止について全職員が理解し利用者が安心して過ごせるよう、毎月のミーティングで注意すべきところは反省し勉強会を続けていく。また、研修会にも参加する。	3 ヶ月
2	36	新人職員も入り認知症による言動、人格を尊重した対応の理解が薄く思われる。	認知症への理解度を深め、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を理解する。	センター内に置いてある”認知症”や”プライバシー”に関する本やマニュアルを読み、勉強会等で理解を深め研修を継続的に行っていく。	6 ヶ月
3	1	法人として統一した理念やスローガンを掲げ、職員に目的意識を浸透させるため朝礼等での唱和を行っている。唱和を行うだけとなっている。	理念をもっとケアの現場に反映できるよう具体的な課題を設けて理念と合致させていく。	ユニット毎のミーティング、センター全体のミーティング等で、具体的な課題を設けて理念と合致させていく。また年度毎の統一スローガンが決定する際にセンターとしてのスローガンを掲げていく。	10 ヶ月
4	2	年2回避難・消火訓練を実施また夜間時を想定し訓練を行っている。夜勤者だけでは非難困難なため地域の住民の協力を得たい。	火災発生時に地域住民からの協力が不可欠のため、当センターの施設内部を見学し建物の間取や内情を知って頂きたい。	推進会議で行政区回覧板に当センターの見学の件を入れていただくよう自治会長に了解を得る。また近隣の住民宅を回り改めて挨拶と協力を呼びかける。	3 ヶ月
5	20	入居当初と違い近隣住民や友人、親戚の足が遠のく事が多い。	年数が経つにつれ散歩時に近隣住民とのコミュニケーションが図れるようになってきた。挨拶から始まり徐々に馴染みの関係作りに取り組んでいく。	利用者の体調や天気の良いときは、散歩や外気浴を多く取り入れ、近隣住民との接点を作り新しい出会いから馴染みの関係を継続出来るよう取り組んでいく。利用者にとって当センターが「新しいホーム・生活の場」として支援に努めている。	12 ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。